

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 29 年 8 月 5 日
＜第 4 号＞
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第 7 回講座「教育相談の機能を生かした児童・生徒理解と保護者対応 ～いじめを事例とした対応に学ぶ～」

平成 29 年 7 月 8 日（土）に、児童・生徒理解と保護者対応の具体的な方法を理解し、特別教育実習における学級での指導に生かすことをねらいとして、第 7 回講座を行いました。

まず、東京教師養成塾を担当する菅野 恭子指導主事が第 2 回公開講座に向けて、学習と評価についての講義を行いました。この講義では、指導と評価の一体化、妥当性、信頼性のある評価をキーワードに、子供の側に立って授業内容を理解することの大切さについて話がありました。

次に、高瀬 智子統括指導主事が講義を行いました。この講義では、いじめ問題に対応するために必要なことや教育相談的な対応の進め方、児童・生徒と面接する際の留意点について、説明がありました。いじめは、どの学校にも、どの児童・生徒にも起こりうるものであると考えて、組織的に対応していくことが必要であるとの話がありました。

続いて実施した班別演習では、事例をもとに問題点や対応策を考え、その内容に基づいたロールプレイを行いました。塾生は、児童・生徒役、教師役、観察者に分かれ、それぞれの役割を演じた後で、その時に感じたことや気付いたことなどについて意見交換をしました。保護者対応では、東京教師養成塾担当教授が保護者役になり、ロールプレイを行いました。塾生は、保護者の思いや願いを受け止めて対応することの大切さや難しさを実感していました。

後半では、「児童・生徒とのよりよい関係づくりに向けた教育相談的な対応の在り方」、「保護者との信頼関係を築くために日々意識すること」をテーマに班別協議を行いました。

【塾生の感想より】

- ・評価がねらいに即した内容になっているのか常に振り返って学習指導案を作成し、実践を行っていく。
- ・ロールプレイを通して、保護者や児童の気持ちを体験することができたので今後の実践に取り入れるよう努力していきたい。



ーロールプレイを行う塾生ー

●第 8 回講座「授業づくりの基礎④ ～特別活動の指導と学級経営～」

平成 29 年 7 月 22 日（土）に、学級経営の意義や果たす役割について理解するとともに、特別活動における具体的な事例を通して、よりよい学級づくりについて実践的指導力を高めることをねらいとして、第 8 回講座を行いました。

【小学校コース】

東京教師養成塾担当の菅野 恭子指導主事が「学級経営の意義とは」をテーマに、学級経営の 4 つの視点に基づき留意したいこと、学級経営案に基づく具体的な指導の例について説明しました。その後、東京教師養成塾担当の上野 研二教授、近谷 幹男教授、武田 一郎教授が特別活動の指導に関する講義と演習と行いました。特別活動の意義や内容、事前の指導と準備、話し合い活動の活動過程について話がありました。学級会の活動計画を作成する演習や係活動の指導に関する演習が行われ、塾生は活発に意見交換をしていました。

【特別支援学校コース】

東京教師養成塾担当の村上 正昭指導主事が「学級経営の意義とは」をテーマに、特別支援学校における特別活動及び学級経営が果たす役割について説明しました。その後、東京教師養成塾担当の信方壽幸教授が学級経営に役立つ ICT 機器を活用した教材づくりについて講義を行いました。塾生は、信方教授からプレゼンテーションソフトを活用して動画を制作する方法の説明を受け、動く絵本を作りました。その後、制作した動く絵本にコメントをつけて発表し合い、工夫を凝らした作品に拍手や驚きの声がありました。

【塾生の感想より】

- ・伸長期では、今回の講座の学びを生かし、学級経営に着目し、課題をもって実習に励む。
- ・子供たちが学びたい教材をつくるために様々な機能を学び直し、授業実践に生かしていきたい。



ー特別活動の指導に係る講義ー ーイラストを編集する塾生ー

【連載シリーズ コラム⑤】

◆ 見つめ、見渡し、学び続ける —自己を振り返り、学び続ける姿勢— ◆

東京教師養成塾教授 安齋 正彦

「学ぶ者のみ、よく教えられる」。自分が学ぶことなく人に教えることはできません。ましてや、子供たちの夢を叶える教師になるためには、より一層日々の研鑽を積み上げていく必要があります。東京教師養成塾では、三つの目指す教師像を掲げ、教育の専門家としての力量を高めることを目指しています。

今、東京教師養成塾生は形成期の特別教育実習を終え、「しっかり勉強をしなければ、子供たちに教えることはできない」ということを心の底から実感しているところですが。それでは、どのように今後、伸長期に向けて研鑽を積み上げていけば良いのでしょうか。東京教師養成塾では、表題にあるように、一人一人の養成塾生が「見つめ、見渡し、学び続ける」ことを通して「自己を振り返り、学び続ける姿勢」を維持するよう働き掛けています。

まず、自分の実践をしっかりと厳しく見つめるよう指導しています。見つめることで自分の課題が明確になります。そして、その課題解決のために一生懸命努力し、力が付いていくのです。「見つめる」ことを通して、毎日刻々と変容する「子供」の様子をリアルタイムで把握し、どの子に何を指導すれば良いのか、そして指導している「自分」のスキルはどうだったのかと、自己評価しながら修正を加えるといったPDCAサイクルを目指して欲しいと願っています。

次に、広く物事を見渡すよう指導しています。「木を見て森を見ず」のような見方では、子供を教育することはできません。幅広いもの見方や考え方、そして、大所高所から物事を見なければ、本質は見えてこないでしょう。木は一人一人の子供、森は児童集団としての学級、土は家庭や地域を意味します。広い視点から見渡し、全体を掌握する力を付けることで、いろいろなものが見えてくることを願っています。

最後は、常に学び続けるよう指導しています。学ぶことをやめてしまったら、そこで成長はストップしてしまうのです。「学ばば学ぶほど、自分が何も知らなかったことに気付く。気付けば気付くほど、また学びたくなる。」という自ら学ぶ姿勢をもち続けて欲しいと願っています。

教師でいる限りは、いつまでも学び続けなければなりません。そのスタートが養成塾生の期間でもあります。常に教師として、教育に対する情熱をもって臨むことが、何にも負けない原動力となることを実感させ、今後とも、自己を振り返りながら、理想の教師像を目指し、学び続ける態度を育成してまいります。

【連載シリーズ コラム⑥】

◆ 単元指導計画の作成と本時の授業づくり ◆

東京教師養成塾教授 小林 巧

東京教師養成塾の特別教育実習では、日常の授業実習のほかに、8回の授業研究を行います。形成期（1学期）の授業研究や日常の授業実習の積み重ねによって、塾生は少しずつ授業力を身に付けてきています。

児童や生徒にとって充実した授業にするためには、確かな単元指導計画を作成し、毎時間の授業づくりを着実にすることが大切です。2学期からの伸長期の授業では、単元指導計画の作成にあたって、次のことに留意するように指導してまいります。

まず、単元の全体像を見通した計画を作成することです。社会科を例にとると、学習指導要領解説を基に、単元の目標や評価規準、目標を達成するための学習内容の組み立て、学習内容を具体的に理解させたり習熟させたりするための学習活動の工夫、学習活動を支える教材の精選を図ります。次に、問題解決的な学習の流れを基本とし、児童の問題意識や思考の流れを考えて、指導計画を作成していきます。単元のはじめは、問題把握や学習問題づくりを意識して、児童の主體的な学びが展開できるように、留意します。このように、各教科・領域の特性に応じて単元指導計画を作成していくことが充実した授業につながります。

単元指導計画を作成することで、単元の目標を達成するために、学習内容や学習活動の精選や軽重が図られます。教師養成塾では、「授業づくりを考える」という冊子の中で、各教科、道徳、特別活動等の単元指導計画例が示されています。養成塾生は、これを参考にしながら、単元指導計画を作成します。授業は教師の命であり、学習指導要領に基づき、計画的に展開されなければなりません。単元指導計画を作成することによって、授業を支える教材研究が深められ、単元を通して児童に理解させたり習熟を図らせたりする目標や学習内容が明確になります。自ら問題をもち、主体的に問題を追究し解決しようとする児童の学びも培われるのです。